

整 理 No.2018-13		労働災害状況調査表			
発生会社 事業所					
災害発生日時		2017年7月14日(金) 13時20分 天気 (晴れ)			
災害区分		☒ 不休災害 ☐ 休業災害 (休業見込み日数: 日)			
被災者	部門	☒ 生産・技術・営業・管理(事務)		雇用形態	☒ 正社員・派遣・契約・その他()
	年齢	33 歳	性別: ☒ 男 ☐ 女	勤続年数	2 年 経験年数 2年
	傷病名	病名 (炎症) 部位(右手)			
	傷病部位	右手の中指と人差し指			
災害発生状況	朝から通常の作業(塩素系溶剤:メチクロの残渣処理)を ゴム手袋を着用し行っていたが、翌朝(15日)、右手の指 赤くなって腫れていて指が曲がらない状態だった。 15日午前、皮膚科病院で見てもらった結果、軽度の 有機溶剤火傷の診断であった。 対応する薬を処方され、服用したところ、痛み、腫れは 取れ、現在、快方に向かっている。		状況概略(写真orイラスト)  短いためここから溶剤蒸気が入った可能性もあり。 長い手袋に変  残渣の拔出しの際は長い専用保護手袋を使用することにした。		
	災害の型 ^{※1)} 7:有害物との接触		作業の形態: ☒ 定常、非定常、その他()		
	起因物: 有機溶剤(メチクロ)		特記事項:		
	高温で釜内のメチクロ残渣処理作業時にメチクロ蒸気がゴム手袋を通して隙間に入り、炎症を起こしたと思われる。 1、人的要因(man): 溶剤対応の保護手袋を着用し、溶剤を直接扱っていないので手順的には問題は無い。 2、物に関する要因(machine): 塩素系廃液残渣拔出しの際、液温が高く蒸気が相当量出ている。 3、環境要因(media): 外で作業をしているため溶剤蒸気は拡散し薄くはなるが、風下側になると蒸気が作業者に当たっている。 4、管理的要因(management): ゴム製の保護手袋が短いので溶剤蒸気の中に入っている危険性があったと思われる。				
対策	①メチクロにも対応可能な長いゴム手袋を着用し、作業に当るようにする。 ②蒸留残渣など高温の溶剤を扱う時も含め、塩素系溶剤取扱い時は長いゴム手袋を使い、常に風上側で作業する。 ③今まで通り、有機溶剤取扱い後には必ず石鹸で十分手洗いを行う。 ④もし、痛みなど異常がある場合は速やかに上長に報告する。 ⑤安全衛生教育により、有機溶剤取扱い時の注意喚起を更に実施する。				
	対策分類 ^{※2)} :1-6、2-4				
備考	類似箇所の摘出 :				